

第1回「第2期県立高校将来構想検討協議会」における協議の概要について

1 開催日

平成26年8月5日（火）

2 協議の概要

(1) 会長、副会長選出

会 長 古賀 和利（国立大学法人山口大学理事・副学長）

副会長 小野 英輔（サマンサジャパン株式会社代表取締役会長）

(2) 事務局から「第2期県立高校将来構想の策定について（案）」等について説明

(3) 「第2期県立高校将来構想（検討材料）」の協議における主な意見

- 策定に当たっては、地域の意見を反映させる場も必要である。
- 県立高校の将来像を考えるに当たっては、高校教育を巡る全国的な現状や課題だけでなく、山口県に特化した現状・課題を踏まえる必要がある。
- 基礎力の低下が指摘されているが、大学では、勉強はできるが社会人としての基礎に欠けている学生が多く見られる。生活の基盤となる生徒の資質をどのように育てていくのかを考える必要がある。
- 生徒が多様化したといわれるが、一人ひとりを見ると多様性がない。集団の中で、他者の多様な考え方に対応する力を身に付けさせることが学校教育の課題である。
- 社会の多様化に対応して教育も多様化すると、子どもたちは混乱するのではないか。いかに社会が多様化しようとも、教育の根っこの部分を一貫して強化する教育活動も大切である。

(4) まとめ

今回の意見を踏まえながら、事務局の提示した検討材料の方向でまとめることで全委員が了解した。